

令和7年度
奈良県立大学附属高等学校
入学者一般選抜検査問題

国語

注意事項

- 1 指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 2 答えは全て解答用紙の解答記入欄にマークしてください。複数を解答する場合も、一つの行には一つだけマークをしてください。(≡(≡))
例：解答番号 20、21 に、答えとして①と②の2つをマークする場合、次のいずれかのようにマークします。

解答 番号	解 答 記 入 欄
20	● ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
21	① ● ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

または、

解答 番号	解 答 記 入 欄
20	① ● ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
21	● ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

- 3 印刷ミスなどがあれば、静かに手を挙げて監督の先生に知らせてください。
問題内容についての質問には答えられません。
- 4 不正行為は絶対にしないようにしてください。

一
次の各問いに答えよ。

(一) 次の(ア)、(イ)の文中の「」について、漢字はその読み方として最も適切なものを、カタカナは漢字を用いて表したときに最も適切なものを、それぞれの①～⑤から一つずつ選び、その数字を、(ア)は解答番号「1」に、(イ)は解答番号「2」にマークしなさい。

(ア) 道路の一部分が陥没し、通行止めになっている。

- ① かんぼつ ② かんらく ③ ちんぼつ ④ ちんでん
⑤ せんぼつ

(イ) 弟はその話を聞いたときに、イチジルシイ動揺を見せた。

- ① 著い ② 著しい ③ 著るしい ④ 著じるしい
⑤ 著ちじるしい

(二) 次の文の()にあてはまる言葉として最も適切なものを、後の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号「3」にマークしなさい。

・私は今年の書道展で初めて入賞したが、このような結果は()に成し得たものではないということを伝えたい。

- ① 一喜一憂 ② 一言一句 ③ 一朝一夕
④ 一進一退 ⑤ 一長一短

(三) 次の文の「」と熟語の構成が同じものを、後の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号「4」にマークしなさい。

・晴天の空を見上げて大きく息を吸った。

- ① 海底
② 断念
③ 師弟
④ 年長
⑤ 豊富

(四) 次の文の「の」と同じはたらきをしている「の」を含む文を、後の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号「5」にマークしなさい。

・飛行機の離陸する様子を窓ガラス越しに眺める。

- ① 彼は毎日を楽しむのが上手だ。
② 明日の約束を忘れないでくださいね。
③ 行くの行かないのと大騒ぎをしている。
④ 隣の有名な公園で待ち合わせをする。
⑤ 私の大切にしているものはこのオルゴールだ。

(五) 「」——部分の敬語の使い方が適切でない文を、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号「6」にマークしなさい。

- ① 先週の日曜日、街角でばったり担任の先生にお会いました。
② 会場には、来賓として意外な方がいらつしやいました。
③ 皆さんがゲストとして出演されるラジオ番組を拝聴する予定です。
④ 当店おすすめの焼き立てパン、ぜひできたてをいただいてください。
⑤ 次の講演会は一か月後ですが、皆様、来月も参加なさいますか。

次の文章を読み、各問いに答えよ。

合唱コンクールを前にして、五組の指揮者水野^{みずの}早紀^{さき}が怪我^{けが}をする
 アクシデントに見舞われた。クラスメートの井川^{いがわ}音心^{おんこころ}、金田^{かねだ}晴美^{はるみ}（キ
 ンタ）、武井^{たけい}岳^{がく}、山東^{さんとう}涼万^{りやうまん}は早紀を保健室の田岡^{たおか}先生のところ^{ところ}に連
 れて行き、朝練習でクラス全員が集まっていた教室に戻ろうとして
 いる。

音心は、保健室から教室に戻る廊下を、岳たち三人とは少し間をおい
 て、歩いていた。田岡先生の見立てだと、早紀が指揮棒を振ることはき
 びしそうだ。病院の結果待ちではあるけれど、早急に代理を考えておか
 ねばならない。

前を歩く三人も、ショックを隠せず終始無言だ。

教室に戻ると、みんながいつせいに駆け寄ってきた。晴美が女子に取
 り囲まれる。

「早紀、どうだった？」

「頭打ったって聞いたけど、だいじょうぶそう？」

「うん。頭の方は平気そう。でも……」

A 晴美は言いよんだ。すると、

「転んだときに、右手首を怪我したらしい」

音心が代わりに答えた。

「えーっ、右って」

悲鳴のような声が反響した。憶測が飛びかう前に、音心は話を続けた。

「おそらく、早紀が指揮を続けるのはきびしいと思う」

一瞬静まり返ってから、教室中が一気にざわついた。

「水野の代わりに指揮出来るやつ、いるのかよ」

「指揮者なしってのは、ダメなんだっけ」

そんなざわつきに、岳の大声が覆いかぶさった。

「すまん。水野が怪我したのは、俺のせいだ」

「お前のせいってどういうことだよ」

涼万が食いつくように、岳に顔を近づけた。

「水野、俺が合唱コン出ないんじゃないかって心配して、朝、体育館に
 顔だしたんだ。体育館に寄らなきゃ、あそこで倒れることもなかったよ
 な」

「あんた、やっぱり出ないつもりだったの」

晴美がけんか口調になる。

「まさか。そもそもキンタ、お前が余計なことを水野に吹き込んだから、
 水野が心配して」

岳が言い終わらないうちに、晴美がさえぎった。

「はあ？ じゃ岳は、水野さんの怪我は、わたしのせいだって言うんだ」
 いつの間にかクラスのみんなは黙って、ふたりのやりとりを注視して
 いる。

「やめろよ。誰のせいでもないだろ」

B 苛^{いら}立ちをこらえたような音心の声に、ふたりは口を閉ざした。

そのとき、教室のドアががらりと開き、担任の山口先生ではなく、副
 担任で音楽の宮下先生が入ってきた。両手を早打ちする。

「はい、席着いてー」

みんながひと通り席に着くと、宮下先生が口を開いた。

「今日は山口先生出張なので、わたしが五組に入ります。欠席はいるか
 な。そこは？」

宮下先生が、後ろの方の空席を指さした。となりの席の女子が、

「水野さんです」

と答えると、

「ああ、水野さんね。聞いてます。連絡事項は特にないので、早速一時
 間目のロングホームルームに入ります。山口先生からは合唱コンの練習
 にあてられて聞いているけど、音楽室使う？」

宮下先生は淡々と進めた。

「先生、その前にいいですか？」

音心がずっと手を上げた。

「はい、どうぞ」

「水野さんは右手首を怪我して、指揮が出来ないかも知れません。だから、まず代理を決めておきたいんです」

「ああ、そっか。水野さんは指揮者だったわね」

宮下先生は早紀が指揮者だったことすら、すっかり忘れていたようだ。

「困ったわね、どうしましょ」

宮下先生は、中指で頭をかいた。

「たしか五組は、最初に指揮者決めるときも、立候補者が誰も出なかったわね。他の組はやりたい人がたくさんいて、決めるのも大変だったんだけど」

晴美がくちびるを突き出した。涼万の貧乏揺すり、机をカタカタと揺らす。

「どうせ代理も決められないでしょうから、時間ももったいないし、先生が適当に決めよっかね」

宮下先生は腕時計をかざして見ると、名簿に目を落とした。宮下先生はいつも先を急ぐ。休みが多いから、遅れを取り戻そうと急ぐのが癖になってしまったのか、もともとせっかちなのかは分からない。

「先生」

突然、音心が立ち上がった。音心の前髪がふわりと浮いた。

「何、井川くん」

「お願いがあります」

「はい、どうぞ」

宮下先生はすかさず、手のひらを差し出した。

「先生は黙っててください」

宮下先生はきょとんと首をかしげた。

「代理の指揮者は、僕たちで決めるから」

音心は抑揚なく言い切った。晴美は音を出さずに机の下で拍手をした。「そうですね。井川くんのリクエストがあったので、先生はいっそのこと、席を外します。音楽準備室にいるから、指揮者が決まったら呼びにきて。くれぐれも騒がないでね。迷惑になるから！」

宮下先生は床を鳴らして、大股で教室を出て行った。

足音が遠のくと、晴美はすぐさま立ち上がって、前に歩み出た。

「みんな、さっきは岳とつまらない言い合いしてごめん。それから井川、先生にきっぱり言ってくれてありがとう。で、指揮者なんだけど、どうしよう。やってもいいかなって人いる？」

晴美はみんなを見わたした。みんなは顔を見合わせたり、うつむいたりしている。

「もし、誰もいないなら、わたしやるよ。水野さんみたいにうまくは出来ないけれど」

晴美は最初こそ指揮者になりたかったのだが、今は全く未練がなかった。むしろ、歌を歌うのが楽しくて、ハモるのが気持ち良かった。でも、今は非常事態だ。誰もやる人がいないなら、買って出るしかない。

少し間があいてから、誰かが手を打ち始めると、そこからパラパラと拍手が重なった。

「うん、じゃあ……」

晴美が覚悟を決めるようにうなずくと、

「ちょっと待って」

音心が遮った。全員が音心を見つめる。音心は思案するようにこめかみのあたりに指を当てると、続けた。

「金田の指揮がどうこうって言うわけじゃなくて、純粋にアルトから金田が抜けるのはかなり痛い」

「確かに。キンタが抜けると声量的にきびしいよね」

同じアルトの女子からも、同意見が出た。

「早紀は指揮は無理だったとしても、問題なければ歌は歌えるはずだろ。だとするとソプラノに加わることになるし、そうするとますます金田にはアルトに残っていてほしいな」

音心が晴美をまっすぐ見た。

「うん、分かった」

こんな大ピンチであつてもあきらめずに、少しでもいいパフォーマンスを目指そうとする音心の心意気が、動揺していたクラスの雰囲気ですつとまとめた。

「お、俺がやる。指揮者」

いきなり岳が立ち上がった。

「えーっ」

女子からブーイングが上がった。

「曲分かってんのかよ」

今まで合唱に協力してこなかった岳には、男子からも手きびしい声が上がった。

「い、いや、分かるよ。うん、分かる」

岳の目がきよときよと泳いだ。

「逆に俺はあんまし歌ってなかったわけだから、合唱から抜けてもキンタみたいに影響ないっしょ」

岳が自分を納得させるように小刻みにうなずくと、また男子からパンチを食らった。

「ていうか、ぶちこわそうとしてね？」

これにはさすがの岳も気色ばんだ。

「なんだと」

すると、今度は涼万がすつと立ち上がった。

「岳、落ち着けよ。指揮者は俺がやるよ。曲もちゃんと分かっているし」

涼万が淡々と語る。

「涼万、お前な。お前だって真面目にやり出したの、つい最近だろ。上

から目線やめろよ。ムカつくんだよ」

ますますヒートアップしていく岳をいなすように、晴美が口をはさんだ。

「岳と涼万が立候補してくれたけど、どうやって決めようか。じゃんけんっていうのもね」

晴美が首を傾けると、音心が、

「ふたりにそれぞれ、出来ればこの場で振ってもらいたいな」

と、提案した。ふたりは目を合わせた。互いに戸惑いの色が浮かんでいる。

「ちよつと、それは……。な」

岳は同意を求めるように、涼万に目配せした。でも、涼万は反応しなかった。

「俺はやるけど。岳がやらないなら、俺で決まりってことでいいかな」

岳の顔がまた鬼のような形相に変わる。

「俺もやる！ やるよやる！」

岳が啖呵を切った。

前に出て、曲の一番だけ、岳から順に指揮をしてみることにした。

音楽は音心が持っていたCDを使った。

岳は照れくさそうに鼻の下をこすると、指揮を始めた。一番が終わると、

「案外いいじゃん」

というささやき声が聞こえた。

次は涼万の番だ。なんでもそつなくこなす涼万は、指揮もしかりでうまくまとまっていた。ふたりが終わると、

「わたしは正直、どちらがやっても、なかなかいいような気がしたんだけど。どうやって決めようか。んー、多数決？」

晴美は助けを求めるように、音心に視線を滑らせた。

「井川に決めてもらうでいいよ」

涼万が言った。

「だな、それでいい」
岳も賛成する。

「みんなもそれでいい？」

晴美が問いかけると、みんなからも賛成、という声が上がリ、音心が立ち上がった。

「金田が言うように、ふたりともよかったと思う。どちらかというと、僕は武井のリズム感とダイナミックさに惹かれたな。んー、熱があるっていうか。だから、武井を推すかな」

岳は「よっしゃー」という言葉を飲み込んで、小さくガッツポーズした。

（佐藤いつ子『ソノリティ はじまりのうた』より。）

(一) 晴美は言いよんだ^A とあるが、このときの晴美の気持ちの説明

として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を
解答番号 7 にマークしなさい。

- ① 早紀が怪我をしたことに責任を感じており、早紀が指揮をできないかもしれないとみんなに伝えることで、自分が責められるのではないかと恐れている。
- ② みんなにこれほど心配されている早紀をうらやましく思うと同時に、こんなことになるのなら、最初から自分が指揮者になっていればよかったと後悔している。
- ③ クラスの大ピンチであるにもかかわらず、本心ではやってみたいと思っていた指揮者になれるチャンスかもしれないと思ってしまった自分を責めている。
- ④ 合唱コンクールの要である早紀が指揮をできないという可能性を示すことになるので、クラスみんながきつと動揺するにちがいないと不安になっている。
- ⑤ 早紀の怪我の状況が正確にわからない状態で、指揮者の代役を決めてしまうと、怪我が軽かった場合に早紀が指揮者に戻れないのではないかと心配している。

(二) 苛立ちをこらえたような音心の声^B とあるが、音心が「苛立ち」を感じ

ているのはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の①～⑤
から一つ選び、その数字を解答番号 8 にマークしなさい。

- ① 指揮者の怪我はクラス全体の問題であるはずなのに、クラスメートが誰一人として岳と晴美の二人のけんかを止めようとしないうちに、ひどい無責任さを感じたから。
- ② まさかの問題を前に、これからどうしたらよいのかをクラス全体で解決に当たらなければいけないのに、岳と晴美の個人的な攻撃のやりとりは解決の道筋から外れているから。
- ③ 思いがけないアクシデントに対して、岳と晴美がお互いを責めることばかり考えていて、いちばんショックを受けているはずの早紀の気持ちを無視しているから。
- ④ 早紀の怪我は岳の責任ではないが、岳の合唱コンクールに対する不真面目な態度が早紀を追いつめていたことは事実であり、その岳が晴美を責める筋合いはないと思ったから。
- ⑤ 早紀の怪我は誰のせいでもないのに、責任の所在を誰かに押し付けようとするのは間違った考え方であり、むしろそれをすればするほど早紀が悲しむことが目に見えていたから。

(三) ^C

少し間があいてから、誰かが手を打ち始めると、そこからパラパラと拍手が重なったとあるが、これはクラスの生徒たちのどのような様子を表しているか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 9 にマークしなさい。

- ① 最初は不安があったが、改めて考えてみると最善の方法だと納得できたために、賛成の意を表明する様子。
- ② 戸惑いはあるものの、他に良い方法も見つからないことから、周囲の状況をうかがいながら徐々に賛成に傾く様子。
- ③ 本筋に良い結論なのかはわからないが、本人の強い希望が伝わってきて、これ以上反対できないと諦めていく様子。
- ④ 誰もが引き受けたくない役割なので、なんとか晴美にやってほしいという思いを晴美に伝えようとしている様子。
- ⑤ 晴美以外に重責を担^{にな}える人はいないという事実をアピールして、早く結論を出そうとしている様子。

(四) ^D

岳の目がきよときよと泳いだとあるが、このときの岳の心情の説明として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 10 にマークしなさい。

- ① 良かれと思った提案が女子だけでなく男子にも否定されてしまい、予想外のことで対処法がわからず、途方に暮れている。
- ② 自分のこれまでの態度は反省すべきだと思っはいるが、周りの冷たい反応に驚き、提案したことを後悔している。
- ③ やっとクラスの役に立てると思ったのに、クラスの大多数に提案をあっさり拒否されて、自分の人望のなさを痛感して落ち込んでいる。
- ④ クラスの窮地を救おうと勇気を出して立候補したのに、それを理解しようともせずに反発する周囲の姿勢に、不信感を抱いている。
- ⑤ 自分のこれまでの振る舞いからすれば、周りの反応は当然であり、自分の言動の説得力のなさを思い知らされて動揺している。

(五) この文章を読んだ生徒たちが、五組の生徒たちの人物像について話し合っている。次の【話し合い】を読んで、後の問いに答えなさい。

【話し合い】

れおんさん このお話から読み取れる、登場人物たちの人物像について

意見を述べてください。

はなみさん 私は、Aの存在がこのクラスにとってとても大事だと

感じました。いつも周りに流されない冷静な判断力があり、クラスのみんなから信頼されている印象があります。

ゆうなさん 物怖じしないで、誰に対しても同じように発言できる人物ですよね。私は、この場面の話の発端になっているBが

どのような人物なのかをもっと知りたかったですが、この範囲には描かれていないので、早く読み進めたいです。反対に、人物像がわかりやすいのはCではないでしょうか。

れおんさん たしかに印象が強いですね。自分の思いに正直で、思ったことを後先考えずに言ってしまうところとか……。

はなみさん でも、クラスの話し合いが進むにつれて、自分ができていることを何かしようという熱意もありますよね。感情的になりがちで、立ち回りが不器用なだけで、悪い人物ではないと思います。

ゆうなさん 感情的というなら、Dにもそういう面がありそうですね。

Cと言いつ争いをしていましたね。

いくおさん そうですね。でも、軽はずみな行動の後にはすぐ冷静になり、反省しているところが、Dのよいところだと思います。クラスの問題を解決しようと、話し合いの中心になっているし、自分の思いよりも、クラスのためになることをしようという責任感が見られます。

れおんさん 私は、一見クールに見えるEが、常にCに対して攻撃的なのが興味深いと思いました。もしかすると、二人の間には何かわだかまりがあるのかもしれない。

いくおさん それに比べると音心は徹底的に冷静ですね。ただ、たしかに常に正論を述べていますし、誰に対しても同じ態度ではあるのですが、言い方がきついような感じを受けました。

ゆうなさん それはどのへんから感じましたか。

いくおさん 例えば、Fという発言です。

はなみさん その発言を受けた人は、その後、明らかに気分を害していますね。もう少し別の言い方のほうが適切だったかもしれないね。

(ア) 【話し合い】の中のA・B・C・D・Eにあ

てはまる人物名として最も適切なものを、次の①～⑤からそれぞれ一つずつ選び、その数字を、Aは解答番号11に、Bは解答番号12に、Cは解答番号13に、Dは解答番号

14に、Eは解答番号15にマークしなさい。ただし、同じ数字を二回以上マークしないこと。

- ① 早紀 ② 音心 ③ 晴美
④ 岳 ⑤ 涼万

(イ) 【話し合い】の中のFにあてはまる発言として最も適切なものを、次の①～⑥から一つ選び、その数字を解答番号16にマークしなさい。

- ① 「やめろよ。誰のせいでもないだろ」
② 「だから、まず代理を決めておきたいんです」
③ 「先生は黙っててください」
④ 「代理の指揮者は、僕たちで決めるから」
⑤ 「金田の指揮がどうこうって言うわけじゃなく、純粋にアルトから金田が抜けるのはかなり痛い」
⑥ 「ふたりにそれぞれ、出来ればこの場で振ってもらいたいな」

(六) この文章の内容と表現の工夫の説明として最も適切なものを、次の

①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 17 にマークしなさい。

① まさかの事態に直面したクラスのメンバーが、発言力のある一人の強力なリーダーシップに導かれて目の前の問題を一つ一つ解決していく様子を、会話文以外の部分で短い文をたたみかけるように重ねながらテンポよく描いている。

② 突然起きたアクシデントに立ち向かう中で、非協力的なクラスメートを説得しながらなんとか巻き込み、次第にクラス全体が一つの方向にまとまっていく様子を、年齢相応のくだけた口調の会話を通して生き生きと描いている。

③ 合唱コンクールという大きなイベントを前に、一人の生徒の身勝手な行動でクラス全体が振り回されながらも、なんとか団結して問題を乗り越えようとする様子を、倒置法や体言止めなどの表現技法を効果的に用いて描いている。

④ クラスの危機をきっかけに表面化した先生と生徒の対立は先生の機転で回避できたものの、生徒が自分たちだけでトラブルの解決をしなくてはならなくなった状況を、事実や様子の淡々とした描写を通して描いている。

⑤ 思わぬトラブルに見舞われたことで慌てたり対立したりしながらも、それぞれの人物が個性を発揮しながら自分たちで解決策を見つけようと力を合わせていく姿を、さまざまな人物の視点から多角的に描いている。

次の文章を読み、各問いに答えよ。

人類は一八〇万年ほど前に、アフリカ大陸を出た。

アフリカ大陸を出るためには広大なサバンナを越えなくてはならない。サバンナにはライオンやハイエナなど現代よりずっと多くの猛獣がいて、草原と低木が広がる場所だから簡単に隠れることもできない。そんな危険な場所を大勢の人類が越えられたということは、そのときまでに、危険地帯をくぐり抜けられるほどの防衛力を備えた社会性を持っていたはずだ。

その社会性とは、共感力を基にしたものだろう。つまり他者と協力する能力だ。その能力は、複数の家族で成立する重層構造の社会を構築する過程で高められたと私は考えている。

人類はサバンナを生き抜くために多産という生存戦略を選択した。草原に進出した初期には幼児がたくさん肉食動物の餌食^{えしき}になった。人類の祖先も餌食になる動物と同じように子どもをたくさんつくって補充したのである。しかし、人類の子どもの成長には時間がかかる。たくさんの子どもを抱えてしまうと、両親だけでは育てられない。そのために、子育ての単位として、一組の家族単体ではなく、複数の家族を含む共同体を形成した。それによって集団規模は大きくならざるを得ず、緊密に付き合う仲間の数によって脳は大きくなったと考えられる。

脳は、自分と仲間の関係、仲間同士の関係をきちんと記憶し、応用する。ただ、家族と共同体は編成原理が違うため、両立させるのはなかなか難しい。編成原理がなぜ違うかというと、一般的に家族は奉仕し合うものだからだ。親は子どもに対して奉仕したとしても、見返りを求めたりしない。子どもも親のために何かをしたからといって、親からの見返りを求めたりはしない。固い絆^{きずな}でつながっているから、自分が犠牲を払ってでも家族に尽くしたいと思うのは自然な感情だと考えられる（もちろん個別に見ていけば、奉仕が当たり前ではない、もしくは奉仕のつ

もりが考え方の違いによって歪^{ゆが}みが生じる家族関係もあるが、あくまで一般論としての話のため、ここでは割愛する）。

だが共同体はそうではない。共同体は互酬性によって成り立っていて、何かすればお返しがある、何かしてもらえばお返しをする、という形が当たり前で、そのお返しがない場合は、コンフリクト^{あつれき}（軋轢）が起こる場合もある。そのコンフリクトを解消させるために、高い共感力と同時に過去と未来をつなぐパースペクティブを持たなくてはならない。例えば、単純な例だが、目の前に困っている人がいるとして、前に助けてもらったから今度は自分が助ける立場になろう、あるいは、いつか自分も同じような状況になるかもしれないから、多少の犠牲を払ってでも相手に奉仕すれば、あとでお返しがある、というような考え方だ。

人類は共感力に基づいて知能を高めたため、重層構造を持つ社会を築くことができた。重層構造を持つ社会が維持できれば、集団規模をどんどん大きくできる。そうすると、段々と仲間の人数も増える。仲間同士の社会関係を頭に入れておく必要性ができるから、社会脳として脳は大きくなる。

言葉を獲得していない時期に、重層構造の社会を可能にしたのが、音楽^B的なコミュニケーションだったと考えられる。

現代においても、その名残はある。例えばスタジアムなどの広い会場で、サッカーや音楽ライブを観^みる際に、声を出して応援できるようにすると、人々はとても生き生きとする。今も一緒に踊るとか、あるいは声を上げて歌う行為は、人々の心をつなぐ非常に大事なコミュニケーションなのだ。

言葉という、音声と意味が合体されたコミュニケーションが出てこななくても、身体を共鳴させたり、他者と声を出し合って、合唱したりすることもできる。そうすれば集団の一体感は強まり、信頼しあえる仲間の規模は大きくなり、大型肉食獣にも打ち勝てる。そうやって人類はサバンナを越え、ユーラシア大陸へと進出していった。人類にとって、社会

構造もコミュニケーションも、共感力を高めたことが大事な資源となったのだ。

人類は何万年もかけて、共感力を育て上げてきた。

小規模な社会で共感力は発達し、大きな社会を構築していく上で、巨大な力を発揮した。だが、共感力は大きな効用とともに残酷な悲劇ももたらした。その能力は方向を間違え、戦争のような取り返しのない事態を招いてしまった。

人類の間違いのものは、言葉の獲得と、農耕牧畜による食料生産と定住にある。

長い間、人類は個人の所有という概念を持っていなかったし、定住もしていなかった。

狩猟採集時代の頃の人類は、一五〇人ぐらいの集団で共感力を使って仲良く生きていた。しかも自然は全て共有財で、土地は誰のものでもなく、誰が使ってもいい共有地だったから、集団間の争いは生まれにくかった。

しかし、農耕牧畜というシステムはそうではない。狩猟採集と農耕牧畜の大きな違いは時間の概念だ。

農耕牧畜は、定住して雑草をはらい、種を蒔き、芽が出て、その実を収穫するまでに時間がかかる。しかも収穫物を監視しなくてはいけない。定住する必要があることになって、土地に価値が生じるようになる。もちろん土地もどこも同じではなく、肥沃な土地と荒れた土地では価値の違いが生じる。どこも似たような「ただの土地」だったのに、「いい土地」と「悪い土地」という違いができたのだ。

最初の頃、農耕牧畜は、大変過酷な作業だった。狩猟採集は一日に二時間か三時間ほど働くだけで必要な食料を手に入れたし、その土地に食料がなくなれば移住していた。現代の狩猟採集民もそういう生活をしている。

しかし農耕民は、土地に執着し続けるから、天変地異が起って全てを失っても、そこに居続けようとする。気候が人々の暮らしを大きく左右する。だから人類は極端な人口の減少と増大に悩まされることになった。

もちろん農耕にもメリットはある。次第に農耕技術は発達し、食料の蓄積ができるようになっていく。農耕のいいところは、誰もが従事できるところだ。狩猟採集ではエキスパートがそれぞれの能力を駆使して多様な食料を集める。そこには個人的な差異が生まれるが、できるだけ差異が生じないように、平等を原則として、権威をつくらない仕組みが狩猟採集社会にはあった。長い歴史の中で、平等を守るための慣習が張り巡らされているのだ。

当然ながら個人の能力に差はあるが、そこで所有を認めたら、たくさん獲物を所有する人に権威が集中してしまう。それができるだけ解消するために、誰も所有をできないようにした。たとえ誰かが多く食料を獲得したとしても、分配する理由を見つけ出そうとするように、常に平等な社会を守ってきたのだ。

格差社会となった現代では、平等を求める声が世界的に広がっている。

しかし平等な社会は、狩猟採集社会の時代に、すでに実現していたのだ。

しかし、その後の農耕牧畜によって、土地による価値の違いができてしまい、領土ができてしまった。その領土も最初はなかなか定着しなかったが、技術が発展して食料が蓄積できるようになると、余剰人口を養えるようになる。余剰の人員がいれば、たとえ誰かがいなくなっても、その代わりはいくらでも見つかるわけだ。そのうち分業制になり、食料生産以外の活動に従事する人々が増えてくる。道具をつくったり、家をつくったり、あるいは服をつくったりする専門職ができる。

さらに、人口が増えれば居住する場所を確保するために、領土を拡張しなくてはならなくなる。領土を拡張しようとする中で、先に目的の土

地に人が住んでいる場合は、その集団を押しつけなければならないので、武力が必要になる。そうやって農業社会は、だんだんと首長制をとるようになり、やがて君主制の国家になっていく。そしてここでも格差が生まれてしまう。所有を認める社会だから、権威者に食料や所有物が集まり、それを権威者の意向によって分配する社会が生まれる。その頃から現代にも通じる悲劇が始まっているのだ。

共感力は、小規模な社会の場合、集団の内外に関係なく、お互いが助け合い、協力し合うことに役立っていた。ところが農耕牧畜で領土が生まれ、ずっとその中で暮らしていると、領土内に住む人々の間でしか共感が通じなくなる。さらに人数が増え、領土を広げようとなった際には、武力行使が必要だと考えるようになる。

共通の敵づくりに役に立ったのが言葉だ。言葉はアナロジーで、同じ人間なのに「こいつはキツネのようにずるいやつだ」とか、「コウモリのように卑怯なやつだ」という言い方をして、同じ人間であるはずの相手を、人間ではない生き物や、危険な外敵に仕立て上げることができる。社会を拡大し、争う相手を言葉で定義する人間による悲劇は、この頃から始まったのだ。

(山極壽一『共感革命 社交する人類の進化と未来』より。出題の都合により一部文章を省略した箇所がある。)

(注) コンフリクト(軋轢) 仲が悪くなること。

パースペクティブ ここでは、見通しといった意味。

エキスパート ある分野において高い知識と技能を備えた人。

アナロジー 類似性をもとに推論すること。

(一) A 目の前に困っている人がいるとして、前に助けてもらったから今度は自分が助ける立場になろう、あるいは、いつか自分も同じような状況になるかもしれないから、多少の犠牲を払ってでも相手に奉仕すれば、あとでお返しが来る とあるが、このことを端的に表している言葉を、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 18 にマークしなさい。

- ① 社会脳 ② 一般論 ③ 互酬性
④ 共感力 ⑤ 重層構造

(二) B 音楽的なコミュニケーション とは、どのようなものか。最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 19 にマークしなさい。

① 現代でこそ人々の心をつなぎ、豊かにするものとして使われているが、元来は大型肉食獣と対決するなど、困難を乗り越えるための手法として実用的に用いられた歴史があるもの。

② 言葉だけでは伝わらないことを共有し合うときに言葉とあわせて用いられる補助的な手段で、共に歌を歌ったり声を出し合ったりすることで、深い一体感を生み出すことができるもの。

③ 集団の一体化を図るために生み出された手段で、声を出し合ったり身体を共鳴させたりすることで、音声と意味が合体するため、重層的な社会の実現を可能にしているもの。

④ 言語を獲得する以前から用いられてきた音声と身体を使ったコミュニケーションで、共感力を高めるために有効な方法だが、社会が発展した現在では用いることが減ってきているもの。

⑤ 歌などで声を出し合ったり、リズムに合わせて一緒に身体を動かしたりする方法で、集団内に一体感を生み出しつながりを強固にすることで、複雑な社会構造を可能にするもの。

(三) ^C 戦争のような取り返しのない事態を招いてしまった とあるが、この原因として最も適切なものを、次の①～⑥から二つ選び、その数字を解答番号 20、21 にマークしなさい。ただし、解答の順序は問わない。

- ① 農耕生活の定着による技術の抑制
- ② 言葉によるアナロジの効果
- ③ 余剰人口の発生による食料の所有
- ④ 農耕牧畜による社会制度の変化
- ⑤ 君主制への移行による共感力の低下
- ⑥ 定住化による自然環境の破壊

(四) ^D 平等な社会は、狩猟採集社会の時代に、すでに実現していた とは、どういうことか。最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 22 にマークしなさい。

- ① 個々の能力の違いをふまえたうえで、誰もが同じような恩恵を受けることのできる仕組みができあがっていたということ。
- ② 突出した能力を持つ者が、そうでない者を押さえ込む仕組みによって、社会全体が平等になっていったということ。
- ③ 不用意な争いごとが起こらないように、集団の規模を抑えて生活していけるような仕組みが整っていたということ。
- ④ 能力の高い者が能力の低いものを助けることで、誰もが同じように活躍できるような仕組みになっていたということ。
- ⑤ 能力別にそれぞれの働きに応じて食料を分配することで、労働と報酬のバランスがとれていたということ。

(五) ^E 領土ができてしまった とあるが、この表現から読み取れる筆者の考え方として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 23 にマークしなさい。

- ① 農耕牧畜をするには領土が必要だったために、領土を作らざるを得なかったが、領土が定着するには時間が必要だという考え方。
- ② 農耕牧畜で領土ができて土地の所有が進んだせいで、集団の構造が変化し、現代につながる格差の問題が生まれたという考え方。
- ③ 農耕牧畜により領土ができたことで、土地を守る意識が高まり食料も蓄積できるようになったので、人々の生活が安定したという考え方。
- ④ 農耕牧畜には領土が必要だという先入観を取り払い、土地の共有地化を進められれば、問題解決への糸口になり得るという考え方。
- ⑤ 農耕牧畜で領土を拡大すると人口が増大し、武力を用いて他を押しつける国が生まれて、争いの絶えない社会になるという考え方。

(六) 次のア～カを、文章に書かれている人類社会の発達の歴史に沿って並べ替えたものとして最も適切なものを、後の①～⑥から一つ選び、その数字を解答番号 にマークしなさい。

ア 領土内に暮らす集団の中で専門分化が進んでいった。
イ 共感力を基に社会性を育て、重層的な社会を構築した。
ウ 集団を治めるものと治められるものの格差が明確化した。
エ 領土拡張の必要性から、集団間で争いが起こるようになった。
オ 種が生き抜くために、子どもをたくさん生むようになった。
カ 定住生活を送るようになり、人が余るようになった。

- ① イ↓オ↓カ↓ア↓エ↓ウ
- ② イ↓オ↓カ↓ア↓ウ↓エ
- ③ イ↓オ↓ア↓カ↓エ↓ウ
- ④ オ↓カ↓イ↓ア↓ウ↓エ
- ⑤ オ↓イ↓カ↓ア↓エ↓ウ
- ⑥ オ↓イ↓カ↓ア↓ウ↓エ

(七) この文章を読んだユミコさんは、文章の内容をふまえ、次の【読書感想文】を書いた。【読書感想文】の ・ にあてはまるものとして最も適切なものを、それぞれ後の①～⑤から一つずつ選び、その数字を、 は解答番号 に、 は解答番号 にマークしなさい。

【読書感想文】

『共感革命 社交する人類の進化と未来』（山極壽一著）を読んだ。私が読んだ部分では、「社会を拡大し、争う相手を言葉で定義する人間による悲劇は、この頃から始まったのだ。」と締めくくられており、なんとも悲しい気持ちになると同時に、悲劇を止める方法はないのだろうかと考えてみることにした。

文章を読み進めていく中で、アフリカ大陸を出た人類の歩みが分かった。長い年月の中、人類はよりよい生存方法を模索して環境に適応しながら、進化し続けている。人類は悲劇を生もうなどとは思っていないのだ。

人類の意図しない悲劇は、どうしたら止められるのだろうか。これはつまり ことではないだろうか。この文章に書かれていた内容からわかるように、たとえば言葉について言えば、 のだから。

「悲劇」は突如起こるわけではなく、徐々に、徐々に、「悲劇」へと変貌を遂げていくのだと感じた。だとすると、私たちは、道具の使い方が正しいかを確認したり、道具のよりよい使い方がないかを考えたりする姿勢が大事なのではないだろうか。まずは、身近な会話で人を傷つけるような言葉を使っていないか、特に、自分との関係性が薄い人や、価値観が合わないと感じる相手に対して、相手を決めつけたり、攻撃したりする目的で言葉を使用していないかということに意識を向けたい。難しいことかもしれないが、そのような心掛けが、悲劇を避けて平和な社会を築いていくための第一歩となるのではないかと思う。

x

- ① 言葉の本来の意味を正しく学び、道具として使用する際は誤解のないようにする
- ② 言葉がもつ効用を周囲と共有しながら、情報を正確に伝達する道具として使いこなす
- ③ 言葉が伝えられる内容の限界を理解し、それ以上の役割は他の道具で補う
- ④ 言葉という道具の利点と欠点を捉え、利点を生かせるように活用する
- ⑤ 言葉という道具の使い方に気を付け、集団の内と外での言葉を使い分ける

y

- ① コミュニケーションに欠かせないものであり、深刻なコンフリクトを解消させるための唯一の手段だといえる
- ② 言葉をたくさん学び、正しく使えるようになれば、格差社会の中でも専門性を身につけていくことができる
- ③ 人は言葉によって共感を広げることができるが、逆に言葉によって簡単に敵を作り上げることができてしまう
- ④ 拡大した共同体の中では、言葉によるアナロジーが仲間同士の関係を維持するために必要不可欠である
- ⑤ 言葉を介さないコミュニケーションでは、共感を生み出すことはできるが、争いを止めることができない

四

次の文章は、能を演ずる役者のために、演技を上達させるための心得などを記した書物である『風姿花伝』の一部である。これを読み、各問いに答えよ。

① ② ③ ④
いかなるをかしき為手なりとも、よき所ありと見ば、上手もこれを
(よくない役者)

⑤
学ぶべし。これ、第一の手立なり。もし、よき所を見たりとも、「我より
(最良の方法)

下手をば似すまじき」と思ふ情識あらば、その心に繫縛せられて、我が
(頑固さ)

悪き所をも、いかさま知るまじきなり。これすなはち、極めぬ心なるべ
(おそらく自覚できないであろう)

し。また、下手も、上手の悪き所もし見えば、「上手だにも悪き所あり。

いはんや初心の我なれば、さこそ悪き所多かるらめ」と思ひて、これを
(それこそ)

恐れて、人にも尋ね、工夫をいたさば、いよいよ稽古になりて、能は早
(技能)

く上がるべし。もし、さはなくて、「我はあれ体に悪き所をばすまじき
(そうではなくて)

ものを」と慢心あらば、我がよき所をも、真実知らぬ為手なるべし。よ

き所を知らねば、悪き所をも良しと思ふなり。さるほどに、年は行けど

も、能は上がらぬなり。これすなはち、下手の心なり。
(根性)

されば、上手にだにも、上慢あらば、能は下がるべし。いはんやかな
(慢心)

はぬ上慢をや。よくよく公案して思へ。「上手は下手の手本、下手は上

(よくよく次の課題を公案せよ)

手の手本なり」と工夫すべし。

(一) ①～⑤を現代仮名遣いに直したとき、表記が変わるものを一つ
選び、その数字を解答番号 27 にマークしなさい。

(二) 極めぬ心 とあるが、そのように言われる理由として最も適切なもの
を、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 28 にマークし
なさい。

- ① 自分より上手な人から、積極的に吸収しようとするから。
- ② 相手のよくない面を反面教師として、自らを省みようとするから。
- ③ 歴史を振り返り、過去の人物から学びを得ようとするから。
- ④ 立場の上下にとらわれて、よい所を学び尽くそうとしないから。
- ⑤ 目下の者からの指摘に対して、聞く耳を持つとしないから。

(三) ^B 人にも尋ね

とあるが、何を尋ねるのか。最も適切なものを、次の

①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 29 にマークしなさい。

① 未熟な自分には、自分自身では気付けないような欠点がたくさんあるのではないかとということ。

② 問題がなさそうな上手な人でも、悪いところがあるのはなぜなのかということ。

③ 自分の欠点は十分承知しているが、未熟な自分がそれらを修正できるのだろうかということ。

④ 自分のように未熟なものが上手な人に認めてもらうには、どうしたらよいのかということ。

⑤ 初心者の自分が上手な人に稽古をつけてもらうときに、どんな工夫をすべきかということ。

(四) ^C いはんやかなはぬ上慢をや

とは、どういうことか。最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 30 にマークしなさい。

① 上手、下手にかかわらず、慢心すると願いがかなわないということ。

② 上手な人でも、慢心していると下手になることもあるということ。

③ 下手な人が、慢心などしていたらうまくなるはずがないということ。

④ 上手になるには、慢心している人にかまっている暇はないということ。

⑤ 下手な人でも、慢心さえしなければ簡単にうまくなるということ。

(五) この文章を読んだバスケットボール部の生徒たちが次のような話し合

いをしている。本文の内容に合わない発言をしている人物の名前を、後の①～⑤から一つ選び、その数字を解答番号 31 にマークしなさい。

先生 この文章は、室町時代の能役者である世阿弥という人が書

き残したものです。役者の心構えやあり方について、世阿弥の考え方が書かれていましたね。この文章の内容を受けて、自分たちのバスケットボール部の練習や活動について考えたことを話してみましょう。

スマレさん 文章に示されていた世阿弥の考え方は、バスケットボール部の練習にも役に立つと思いました。去年部長だったユミさんは、部員の中でいちばんバスケットボール歴が長く、誰よりも上手なのに、誰よりも熱心に練習していましたよね。

サクラさん そうですね。ユミさんがすごいと思うのは、私たちのような後輩相手にも本気を出してくれて、私たちに改善点を教えてくれるだけでなく、後輩にアドバイスを求めているところです。普通なら、先輩は後輩に助言を求めないと思います。

アンズさん たしかに、ユミさんは人から学ぶ姿勢がすばしかったですね。私も、先輩だから後輩だからと考えなくて、自分より実力のある上手な後輩に助言を求めたり、技をまねたりして上達していききたいと思います。

カエデさん 私は中学からバスケットボールを始めたので、まだまだ技術が身についていないと思うことが多々ありますが、高校生になってもバスケットを続けていきたいと思っています。なので、人に自分のフォームや動きで直すべき点を聞いて、もっとたくさん練習したいと思っています。

ツバキさん カエデさんは、中学からバスケットボールを始めたとは思えないくらい、ものすごいスピードで上手くなりましたよね。私は小学校低学年のころからバスケットボールをやっている

すが、「これはもうできるから」と慢心してしまいそうになることがたまにあります。できているから大丈夫と思わずに、私も練習に励みたいと思います。

- | | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|-------|
| ① | スマレさん | ② | サクラさん | ③ | アンズさん |
| ④ | カエデさん | ⑤ | ツバキさん | | |

次のページに続きます。

五

雪絵さんのクラスでは、「守りたいもの」というテーマで、自分の考えを示す論説文を書くことになった。雪絵さんは「日本の伝統料理」というタイトルで文章を書いたが、先生からの助言により、「尾括型」の構成（初めに根拠を述べ、自分の主張を最後に述べる方法）で文章をまとめようとしている。次の①～⑧の順番を並べ替えて雪絵さんの文章を完成させなさい。その際、二番目にあたるものの数字を解答番号 **32** に、四番目にあたるものの数字を解答番号 **33** にマークしなさい。

ただし、①～⑧の中には内容として不要なものがある。不要なものは並び替えに用いないこと。

① 四季の変化に加えて、日本は狭い国土ながら、地形の変化にも富んでいる。海や川、山、平野があり、南北に長いことから寒暖の差もある。そのため地域ごとに特色のある郷土料理も生まれた。例えば、寒冷地である北海道では鮭と野菜を使った温かい鍋料理の石狩鍋、沖縄では特産の苦瓜と豆腐を炒めたゴーヤーチャンプルーが有名だ。こうした郷土料理は、その地域の気候風土や歴史、文化を反映しており、日本の多様な食文化を物語っている。

② 食事の前の「いただきます」と、食事のあとの「ごちそうさま」という挨拶は日本独特の文化である。「いただく」は、食物を与えてくれた神様への感謝の気持ちを表す言葉だとの説がある。食材となった動植物の命をいただくという意味でもあり、食物が料理として自分に届くまでのさまざまな人の労力に対する感謝の気持ちも込められている。食べ終わったあとにも同じ感謝の気持ちを込めて「ごちそうさま」と挨拶する。こうした食への深い感謝の念も、日本の大切な文化だろう。

③ 調理方法のバリエーションも日本の料理の特徴だ。焼く、煮る、蒸す、揚げる、和えるなどさまざまな方法を組み合わせ、素材の風味を引き立てる工夫がされている。中でも特徴的なのは刺身だ。素材そのままに生魚の新鮮さを味わうための方法である。また、和食には出汁も欠かせない。昆布やかつお節からとるうま味成分が料理に深い味わいを与えてくれる。

④ 日本の食卓が豊かな理由の一つに、日本文化の柔軟性がある。和食だけでなく、海外の食文化も柔軟に取り入れて毎日の食卓に反映していく懐の深さが特徴だ。例えば、もともと中華料理だったチャーハンやラーメン、餃子などは、日本風にアレンジされて、すでに日本の食事として定着している。オムライスやトンカツなども、西洋のオムレットやコートの原型だ。日本食の特徴は和食だけではないということ忘れてはならない。

⑤ 私たちの食事は、そのように、世界に誇れる魅力あふれるものである。しかし、和食に関して調べていたところ、ある調査では、「和風の料理が好きな方だ」と回答した人は、二〇〇〇年では六四・九%であったのに、その後減少していき、二〇二四年では四一・六%となった。和食のよさを再認識してもらうために、ここでは、日本の伝統的な食文化の特徴や魅力について具体例を挙げながら紹介したいと思う。

⑥ 日本の伝統的な食文化は、私たちの生活に深く根付いている。そして、このような四季の変化や地域の特徴、調理方法などのさまざまな要素が組み合わさることで、和食はその独自性と魅力を持ち続けているのだ。現代社会においても、日本の伝統的な食文化を受け継ぎ、次の世代に伝えていくことは、私たちの豊かな食生活を支えるために重要であると考えられる。和食のよさを再認識し、和食の文化を守っていききたい。

⑦ 近年は亜熱帯化が進んでいるようにも思えるが、元々日本の気候は温暖で春夏秋冬の四季に恵まれてきた。そのため日本の食文化は四季と密接に関わっている。春はふきのとうやタラの芽などの芽吹きを感じさせる食材が好まれ、味を楽しむだけでなく、味覚で春の訪れを感じることもできる。夏にはさっぱりしたそうめんや精のつくうなぎ、秋には松茸^{たけのこ}や栗^{くり}など、秋らしい食材が使われる。冬はやはり鍋料理で、食卓で一つの鍋を囲めば、心も身体^{からだ}も温かくなれる。このように、日本人は季節の食材を使って豊かな生活を営んできた。

⑧ 日本の伝統的な食文化は「和食」と呼ばれる。二〇一三年にはユネスコ無形文化遺産に登録され、世界的に知られるようになった。和食は四季折々の自然を反映し、色彩の豊かさや、多彩な調理法、地域ごとの特産品を生かした料理が魅力だ。

